

エキノкокクス症について

基本情報

病原体 エキノкокクスという寄生虫による感染症。犬やキツネでは腸に成虫が寄生するため症状は現れないが、便に寄生虫の卵が見つかる。人やネズミでは肝臓に幼虫が寄生し、肝臓の機能異常が現れる。

感染経路 キツネや犬等の排泄物に含まれるエキノкокクスの卵に汚染された水、食物等を口から摂取した場合に感染する。人から人へは感染しない。

症状 肝臓の腫大、腹痛等の初期症状が現れるまでに、成人では通常10年以上を要する。発症後に放置すると、約半年で腹水が溜まり、死に至る場合もある。

診断・治療・予防

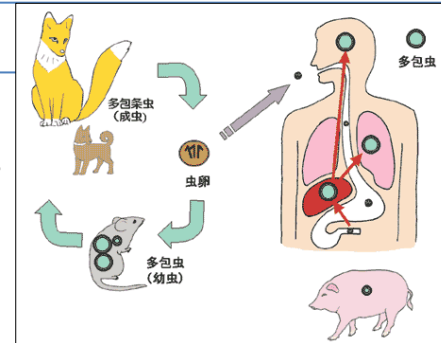
診断 肝臓組織からのエキノкокクスの検出、血清からの抗体の検出。

治療 外科的切除が唯一の根治的治療法であり、早期発見、早期治療が重要。犬への治療は駆虫薬が有効。

予防 感染源となるキツネや犬等に接触しない。沢や川の生水は、煮沸してから飲むようにする。

国内の発生状況・対応状況

- 北海道では、野生動物（キツネ）において常在。
- 感染症法上、四類感染症に分類、犬のエキノкокクス症は獣医師の届出対象となっている。
- 北海道以外でも、愛知県や埼玉県で犬において散発的な発生が確認されている。
- エキノкокクスが常在している北海道では、住民のエキノкокクス症検診や媒介動物であるキツネの感染状況調査等を実施。
- 厚労省では、動物由来感染症予防体制整備事業により、北海道に対し、エキノкокクスの診断・治療等の医療関係者向け研修費用等の補助を行っている。
- AMEDによる研究事業で、北海道において感染源となる野生動物への対策の検討、非流行地における感染犬発見後の対応ガイドラインの作成、を行っている。



	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年4月1日まで
患者報告数	28	25	27	26	1
感染犬報告数	1	0	1	0	3